

国際サッカー評議会(IFAB) 回状29号

## 新たな試行の承認

- 試合参加者の行動
- ゴールキーパーによる時間の浪費
- VARにおける「レビュー」または時間を要した「チェック」後の主審によるアナウンス

IFAB理事会は、2023年11月28日の年次事務会議(ABM)で、あらゆる地域および競技レベルにわたる主要なサッカー利害関係者との広範な協議を経て、競技のフィールド内外の試合参加者の行動を改善するためにいくつかの試行を承認した。

これらの対策は、2024年3月2日に開催された第138回IFAB年次総会で確認されたものであるが、試合に良い影響を与えることが期待されている。しかしながら、その対策が、最も効果的かつ適切な方法で関連する問題に確実に対処できるように、それぞれの試行中に微調整が必要となることもある。承認された試行は、国内の上位2つのリーグのチームまたは各国の「A」代表チームが関わらない競技会でのみ実施できることが合意された。これにより、チームが異なる競技会で異なる競技規則の下でプレーしなければならないというシナリオが回避される。

最初の試行段階が終了し、結果が分析されたならば、IFABは、試行の実施手順を改善する必要があるかどうか、また試行を国際競技会を含む(各国の)トップの競技会に広げることができるかどうかを決定する。

総会出席者は、新たな試行に加え、進行中のビデオ・アシスタント・レフェリー(VAR)の決定に関わるコミュニケーションについての試行を延長することに合意した。この試行は、主審がVARの「レビュー」または時間を要したVARの「チェック」の後に最終決定をアナウンスして説明するものである(項目IIを参照)。

また、一時的退場(シンビン)のガイドラインに更なる修正が必要かどうか、また一時的退場をより高いレベルの競技会に広めることができるかどうかを判断するために、グラスルーツやユースのサッカーにおける一時的退場の現在の使用状況を研究することにも同意した。

### I. 試合参加者の行動に関する試行

試合参加者(競技者、チーム役員など)の不適切な行動が、長期にわたり、さまざまな形で競技に悪影響を与えていることは明らかである。特に審判員の募集や資格の更新を妨げ、競技者、コーチ、管理者、観客、放送局およびスポンサーなどにとってサッカーの魅力を損なうことになっている。

したがって、IFABは、競技をより安全で、より楽しく、より魅力的なものにするために、試合中および試合後に(特に競技規則、教育、懲戒措置などを通じて)変化をもたらす、行動を起こすことができるような方法を特定するために広範な調査を実施した。

フィールド上の対応は、主に競技規則でカバーされているが、試合後の措置は競技会を主催、または承認している団体(都道府県、地域、各国サッカー協会、大陸連盟およびFIFA)の責任である。競技のすべてにわたり、またあらゆるレベルの競技において包括的にアプローチすることのみが、明快で永続的なポジティブな変化をもたらすことができる。

私たちは、競技における容認できない行動に対処し、増大する審判員不足を逆転させ、若者が参加者であれ観客であれ、サッカーを自分の将来の一部として捉えていないというリスクを軽減するために、早急に行動をとることが必要であると信じている。

IFABの調査の一環として、私たちは、世界中のさまざまなレベルにおける競技会の利害関係者から報告と提案を求めた。利害関係者の総意としてそのフィードバックでは、IFABが直ちに参加者の不適切な行動という憂慮すべき傾向に対抗措置をとるべきであるという見解を推奨し、また支持した。

これは困難な任務ではあるが、IFABは競技規則を通じて、あらゆるレベルで実施可能な対策を導入する明白な責任があると信じている。年次事務会議は、試合参加者の行動を改善するための2つの試行（以下を参照）と、ゴールキーパーによる時間の浪費とテンポを乱すことに対抗するための1つの試行を承認した。各試行の実施手順は添付されており、www.theifab.com からオンラインでも確認できる。

試行への参加に関心のある競技会は、各国サッカー協会の承認を得て、IFABに許可をえるために申請しなければならない。

これらの各試行の概要を以下に説明する。

### 1. キャプテンのみが主審に話しかける(アプローチする)ことが可能

審判員は、たびたび競技者に走り寄られる、取り囲まれる、またはそのうえ威嚇されるような行動にさらされている。この行動は、審判員に対する敬意の欠如を示すものであり、競技のイメージを損ない、審判員にとって脅威で動揺させかねないものである。

この試行では、(主審による新たな)シグナルが示されたならば、(識別できるアームバンドを着用した)キャプテンだけが、主審から4メートル以内の「仮想」のゾーンに入ることができる。他の競技者がこのゾーン内に入り主審に近づくと、懲戒措置を受けるリスクがある。

### 2. クーリングオフ時間

主審は、観客による不適切な行動などの不当な外部からの影響を理由に、試合を停止、中断、中止する権限を持っている。しかし、競技者とチーム役員の行動は、競技者と審判員の安全を脅かす重大な対立に繋がりが得るものである。

このような状況においては、公式にプレーを中断することが、気持ちや感情を落ち着かせることにつながり、競技にとって有益であると思われる。この試行により、主審は(新たなシグナルを示すことで)公式にクーリングオフ時間を開始することができるようになり、さらなる対立や試合を中止することが求められるような事態を防ぐのに役立つと考えられる。クーリングオフ時間を設けることで、キャプテンや監督が、自チームの選手や役員に責任ある行動を促すための責任を持っていることに焦点を当てることになる。

### 3. ゴールキーパーによる長過ぎるボール保持

ゴールキーパーが、ボールを長時間保持し過ぎることは、多くの人にとって不公平な時間の浪費であり、テンポを乱す手段であると考えられている。このような行為は、相手チームがボールを取り戻すチャンスがなくなり不満を引き起こすことになる。

ゴールキーパーが、6秒を超えて手(や腕)でボールをコントロールした場合、現在は、間接フリーキック(IDFK)の罰則が与えられている。しかし、ペナルティエリア内での間接フリーキックは管理が非常に難しく、またボールを保持していなかった相手チームに絶好の得点チャンスが与えられるため、罰則として厳しすぎると考える人が多いことから、間接フリーキックとなることはほとんどない。

この試行では、次のことが行われる。

- ゴールキーパーが、ボールを保持できる時間を8秒に増やす。そして
- より適切な再開方法、つまり(相手チームの)コーナーキックまたはスローイン(ペナルティマークの延長線上)とすることで反則を罰する。競技会は、すべての試合でこれらの再開方法のいずれかを選択する必要がある。

フットサルやビーチサッカーと同様に、主審は手を上げて、残りの5秒を視認できるようにカウントダウンする。

IFABは、上記の各試行が競技の改善に大きく貢献できると強く信じている。

これらの試行に加えて、IFABは試合参加者の不適切な行動に対抗するための他の可能性と戦略を引き続き模索していく。

## II. VARにおける「レビュー」または時間を要した「チェック」後の主審によるアナウンス

2023年の第137回年次総会で、IFABはFIFAに対し、VARの「レビュー」または時間を要するVARの「チェック」の後に、主審がスタジアムの観客とテレビ視聴者に意思決定プロセスをより明確に提供するために、最終決定をアナウンスし、説明するという試行について実施することを許可した。

2023年のFIFA競技会で、このようなアナウンスが使用されて成功したことを受けて、現在、試行への参加を希望する他の競技会にも拡大されている。参加するには、IFABからの許可とFIFAが作成した審判およびテクノロジーガイドラインに従う義務がある。

さらに詳しい情報や上記の試行への参加申し込みについては、[trials@theifab.com](mailto:trials@theifab.com) を通じて問い合わせること。競技会主催者は、各国サッカー協会または大陸連盟（いずれか適切な方）を通じて、その支援を得たうえで申請しなければならないことに注意する。

IFABは、グラスルーツから国際レベルに至るまで、サッカーをよりフェアで、よりわかりやすく、より楽しいものにするために、競技規則が進化し続けることを保証するサッカー界の支援に深く感謝する。これらの試行は、この進化における重要な段階を表している。

皆さま方のご協力に感謝する。何か疑義、質問があれば、ご連絡いただきたい。

IFAB事務局長  
ルーカス・ブラッド